

会でも高く評価されました。日本の経験を踏まえながら、世界に共通するような、一般化、普遍化できる労働者協同組合原則をどう作って行くのか

という課題が我々に課せられています。

(当日の報告を編集部でまとめ加筆していただきました)

〈労働者協同組合世界会議報告集会〉

労働の価値と国際連帯を実感したモンドラゴン訪問

中田 宗一郎 (日本労働者協同組合連合会・専務理事)

シコパ第4回世界大会に参加して得た思いを記して報告とします。

会議は、世界規模で深刻化する失業・雇用不安、環境・資源問題、南北問題等に有効に対応するための、協同の力による国際連帯の可能性をさまざまな経験、見解を共有し、確かめ合い、行動計画をもつことを目的に、言語の障害を乗り越え理想と目標を一つにする協同組合人としての、心と体で知り合えた素晴らしい会議として成功しました。

一、二の特徴をあげると

① モンドラゴン・グループの到達点の素晴らしさと、会議を成功させるための献身的なとりくみでした。

おごることなく、国際連帯を自らの使命と位置づけた諸報告、見学会への心配りには強い感銘を受けました。

② 丁度、欧州議会選挙とぶつかり、新しい政治の方向が模索されている真っ最中で、会議のあと、団のメンバーが手分けして、イタリアに足を延ばし、モンドラゴン、マドリッドにも残って交流することで最新の情報を数多く得られたことです。

特別、強い印象を得たモンドラゴン・グループのことを中心に印象記風に報告させて貰います。

モンドラゴンへの見学ツアーには全く満足しました。

ここは、世界中から沢山の人が訪ね、様々な人達に驚異と確信と勇気を与え続けているのでしよう。

「百聞は一見にしかず」でした。

石油ストーブの生産からはじまったウルゴールの歴史を引きつぎ、いまは、冷蔵庫を生産してい

るファゴールの工場に案内されて、「これは、いい」と納得してしまいました。

そこには、一言で言って、日本の工場の1960年以前の労働がありました。

マチマチな服装と履物。隣りで働く仲間の顔がみえる工程。古い重厚な機器。ラインを止めて、工場の外に出て軽食とれる15分間の休けい、などなど。

私は、かつて製紙工場で原価計算の仕事をしていたので、工場で働く労働者や技術者の気質にふれながらの毎日を経験したことから、工場の建設や改造、日々の生産活動にたずさわる労働者の気分や感情を生産の流れ、労働者の顔付きや、ラインの手入れ状況などがかもし出す雰囲気などから体で感じることができ、それが結構当たるのです。

ファゴールの工場では、ゆるやかな自動化はすすんでいます。ラインを止めずに増改築をすすめたと説明がありました。これなら労働者には、生産計画、スピード、コントロールなどの決定に参加・合意が可能だし、やられているだろうと思います。

モンドラゴン原則が定めている「労働の優位性」私達の「労働者が企業の主人公」を現場で追求できる確かな基礎が存在していました。

工場を見学しながら、ふと気がついたのですが、私達の頭の中に、経営者の思考方法が抜きがたくしみ込んでいたことです。

「こんな古い設備で、EC統合、多国籍企業との市場競争に勝てるのか」

「防音、空調がなっていない。作業服・安全靴はどうなっているのか」とつい考えてしまいます。

あくなき市場競争は、工場を捨て、労働者を捨

て、地域・国を捨て、雇用をつくり出せないという深刻な事態に突入しています。

逆に、モンドラゴン・グループは、27,000人の雇用をつくり出し、なお発展をとげています。

労働を価値の最高のものとして位置づけ、権利としての教育、訓練システムを整え、たえず若者の教育に力を注ぎ、年間12,000人が働きつつ技術学校で学んでいました。

研究開発機構—イケランでは、頭脳集団が、ロボット開発に意欲をもやしていました。

最新の技術教育を受けた若者が働き、新鋭機器を駆使しているのであろう新鋭家電工場は、帰路のバスが徐行運転しつつ「ここだ」としか案内されなかったのですがそれで充分でした。よくねられた見学コースが充分説明してくれていました。

レイドロー報告が、モンドラゴンの実験を念頭に、「労働が資本を使う」関係への転換を第二次産業革命と喝破した文言を目にしたときの衝撃はいつも消えないのですが、モンドラゴンの現地に立ってみて、私達がいう「労働者が労働者のままで経営ができる筈だ」というその基盤をモンドラゴンではしっかりとつくってきているし、ますます発展させるであろう力強さを実感できました。

帰国して記録を整理していて発見したのですがモンドラゴンを見学した6月8日は、私たちが10年前、日生協大谷常務からモンドラゴンについての講演を聞きレイドロー報告を知り、イギリス、BBC・TVのビデオを見て、強烈に、モンドラゴンを認識した日と偶然にも同じ日であったことです。

歴史の偶然です。これからの偶然ではない10年が始まる日となるのかも知れないと思いました。

会議が追求した課題の中心テーマは国際連帯でした。このテーマを話し合い、検討を深める上でもバスク・モンドラゴンは最適地でした。

南の国、途上国のなかまは、仕事おこしのために、北の国、先進国の資金、技術、人材養成、教育での援助を強く期待します。極端を恐れず言えば、相手は国でも、大企業でも、協同組合でもよいことになりかねない危惧を抱いてしまいます。

モンドラゴンのメンバーが、国際連帯を自からの使命と自覚し、今回、シコバ会議を受入れたのはE C統合、多国籍企業に対抗する協同組合企業の戦略を検討する中で、多国籍企業の一方的な市場競争の下に世界を置くならば、失業、雇用問題、環境、資源問題、南北問題等どれ一つとっても、人類の未来にかかわって明るい展望はなく解決の方向はないと見たからです。地球上のどこに住もうと、人を中心とした人の協同・団結によって、最初はどんなに小さくとも、まず仕事おこしをはじめること、そのために先進協同組合は、地球規模で力を合わせることを使命とすることこそが国際連帯の核心ととらえたのではないかと思うのです。

彼等の報告を詳しく聞きとることはできなかったけれど、彼等がモンドラゴンで現実化している実績と、国際会議がこの地で開かれたという事実が力強く教えてくれていると思うし、それをわかり合って力を合せようではないかと、おごることなくメッセージを送ったのだと思います。

レダス会長がこの会議を東京で提案してから2年弱でこのように成功させたタフネス振りには改めて敬服しました。そして何より感心したのは、会議の運営に精力的に当たっていたメンバーが、30代、40代の若い働き手であったことです。

彼等は柔軟で活力に豊んでいました。

日本からも、新卒3年目の菊地君、パラマウントの中堅、中村君が英語が堪能で大いに活躍してくれたことは、とてもうれしいことでした。

時代は大きく動いていることを改めて確認できました。時代を決定づける新たな価値観、枠組みはまだ生まれてきてはいません。

そういう時に、今後、数十年間にかかわるICA・協同組合の基本的価値についての提案と、その検討に、日本に於ける実践をふまえた提案を、資料を添えて報告し、討論にも積極的に参加でき、会議のまとめにも一定の反映ができたことを大変誇りに思います。持参した英文資料は好評でした。

地元紙の若い女性記者から一時間近い取材を受け日本の運動を話し、記事になりました。



最後に、遠いスペインの空の下で考えていたことを二点記してまとめとします。

一つは、高齢者協同組合構想に至った、私達の運動の展望に強い確信をもてたことです。

マドリッドの夕方は長く、10時頃でも明るいのです。8時から9時にかけて街は賑わい若い人にまげず老夫婦が手を組んだり、いたわり合っている姿は素敵でした。

一方、スペイン広場に、年寄りが一人で所在げに腰掛けている姿に日本と変わらないものを感じました。マドリッド労協のなかまは、高齢協に強い関心を示しましたが、なにしろ若年の失業が大変なのです。日本でとりくみを成功させることは、とりもなおさず国際貢献なのです。

二つは、シコパ世界会議の次々回位には、日本がホスト・受入れ国に名乗りをあげるようになるのかなということです。

私は、今回の参加で、協同組合の国際連帯による可能性を信じ、情熱をもやし、実直に活動する仲間に関わり、その思いを語り合えることを期待していました。その思いは充分なつたと思います。大八木さん、石塚さんがコツコツと耕してくれて

きた人間関係と、何んと言っても、日本での運動の実績が、国際的にも強い関心と期待を広げていることを強烈に感じます。

モンドラゴンの熱心さ、真面目さを思うと、日本の運動は、とてつもなく大きな計画を持つことが求められていると思います。

集会のお知らせ

9.1 “天災を忘れさせない集いⅡ”

in 山手教会

応援人 募集 !!

- 9月1日(木)、19:00～ 渋谷:山手教会
- 参加費 100円
- 問合せ先 千代崎一夫 TEL.03-3964-8102
千田ゆう子 TEL.0473-45-7287